

feature interview

Mark Ronson

待望の、そして約2年振りとなるHARLEMでのプレイが、11/10(金)に決定しているMARK RONSON。今回も、想像を絶するオリジナルなプレイをしてくれるはず!

■まず始めに近況を教えてください。

2007年にリリース予定のアルバム“Version”の最終制作にかかっているよ。

あとはライブバンドとのセッションやプロデューサーワークで忙しかつてるかな。

Robbie Williamsのニューアルバムのうち4曲が僕が提供したんだ。ニューシングルの“lovelight”もね。

Christina AguileraのニューアルバムやLily Allen、Amy Winehouseのプロデュースも手掛けている。LilyとはツアーDJとして国内と一緒に回った事もあるよ。

■そのニューアルバム“Version”はどんな内容ですか?

本当は今年中にリリースしたかったんだけど、色々あってね。決してネガティブな事ではないから安心して欲しい。クリエイティブコントロールに遅れが出ただけなんだ。

今回はそんなにHIP HOPにこだわった内容にはなっていないよ。解り易く言うと、僕のDJ的視点から見たアルバムになってる。

Coldplayの“God Put A Smile Upon Your Face”やBritney Spearsの“Toxic”のカバーとかやってるよ。いったいどんなんだよ(笑)、と思うかもしれないけど、それは聴いてのお楽しみ。

■今NYでレギュラーパーティーを持っていますか?

今は固定のパーティーを持ってないよ。けどラスベガスのPureでレギュラーを持っているよ。

DJをやる事は大好きだけど、さっきも言った通りプロデューサーワークが忙しかつてね。他にもモデルをやったりしてるしね。落ち着いたらNYでレギュラーを持ってもいいかな。

■今回の来日はDKNYのフラッグショップのオープニングパーティーでモデル、そしてDJの目的もあります。ファッションパーティーによく行ったりしますか? またファッションはあなたにとって重要なキーなのではないですか?

そうだね、昔はよくファッション・パーティーによく顔を出したりDJをしたりしていた。でも今はそんな時間がないから、気になる人のパーティーだったり、いい噂を聞くパーティーのみ行ってるよ。

僕にとってファッションはとっても重要だね。最近気づいたんだけど、年をとれば取るほど僕はファッションへの興味がわいてきたんだ。若かった頃は、ただクールなTシャツにクラシックなスニーカーで満足していたけれど、今は、洋服にもっと執着心を持って、好みも少し高級になったかな(笑)。今はディオールオムの大ファンなんだ。日本のファッションシーンは最先端だから、原宿や渋谷でショッピングするのが楽しみではないかな。

■今までに行ったパーティーで一番印象に残っているパーティーは?

昨年、カール・ラガーフィールドが主催したハロウィーンパーティーかな。マンハッタンのダウントウンにある凄く古い郵便局のビルを丸ごと貸し切って、豪華な装飾とサウンドシステ

ムが入っていてね。

その時はQ-TIPとDJをしたんだけど、最高のパーティーだったね。彼の場合、DJスキルうんぬんというより、音楽に対して愛情が深いから、凄く良いバイブスがあるんだ。お客さんもそれを汲み取ってくれて、フロアは最高にクレイジーな状態だったよ。

■多くのアーティストが洋服ブランドを立ち上げていますが、あなたも興味ありますか?

今は興味ないかな。時間も無いしね。まあ誰でも自分がデザインした洋服をクールに着こなしたいと思ってるけど、僕も近い将来やるかも。ただ今はそういう時期じゃないよ。

■では、あなた自身のレーベル、Allido Recordsの近況を教えてください。

おかげさまで好調だよ。今年、レーベルとして最初のアルバムをリリースしたんだ。

Rhymefestのデビューアルバムで“Blue Collar”というんだ。彼はデビューする前にカニエの“Jesus Walk”という曲でアカデミー賞を受賞した、とんでもないラッパーなんだ。こんなヤツは後にも先にも彼しかいないだろうね。もちろん日本の皆はこんな事知ってると思うけど!(笑)

この他にも「half nelson」という映画のサウンドトラックもAllido Recordsからリリースしたし、Hard Rock Hotelsのコンピレーションも出す予定だよ。

■プロデューサーの視点から見て、今一番ホットなアーティストは誰ですか?

Amy WinehouseとLily Allenさ。僕が曲を提供したからじゃなくて本当に素晴らしいアーティストなんだ。

Lily Allenは可愛いだけでなく、本当に才能のある子だね。まだ21歳だし。どれにもカテゴライズされないタイプかな。

■将来のゴールは?

今は音楽の事しか考えられないから、後世にも残るようなレコードをプロデュースする事。プロデューサーなら誰もが思う事じゃないかな。

■最後にハーレムで回したのは約2年前になりますが、今回の意気込みは?

想像を絶するような凄いパーティーにしてみせるよ。2年前に行った時も凄くパワーをもらったし、毎回いいパーティーになるので今回も凄く楽しみにしている。

■最後に日本のファンにメッセージを。

いつもサポートしてくれてありがとう。君たちは最高の僕のお気に入りだよ!

来年リリースする“Version”、Allido Recordsに注目してくれ!!



Mark Ronson "BIOGRAPHY"

Mark Ronsonを説明するのにひとつの言葉では表現しきれない。NYCを拠点とするイギリス人アーティスト、世界的に知られている最も洗練されたDJ、ファッション界のリーダー達やヒップホップ・エリートのお気に入り、プロデューサー、バンド・リーダー、ジェット・セッターでありながら多忙にこれらをこなしてしまうのが彼である。

誰もがMarkがRemixしたRadioheadの“Just”を聞いた事があるであろう。ヒップホップ・ビートとソウル、ファンクで再構築された音とPhantom PlanetのAlex Greenwaldの純粋なボーカルに世界中のダンスフロアは揺るがされ波紋が広がった。この“Just”は、彼のニューアルバム“VERSION”の制作のきっかけとなった。“VERSION”は、彼のユニークなアイデアが実験的に表現され、音楽という芸術の旅に導いてくれる素晴らしい作品となっている。

「幼少時代をイギリスで過ごした事がこんなに音楽の好みに影響するとは思っていませんでした。」と彼は言う。「僕は子供の頃、'80年代後半、'90年前半のDef Jamのレコードや、LL Cool Jの“Mama Said Knock You Out”といった独創性あふれるヒップホップを聞いていたんだ。またBlurやWonder Stuff、The Brand New Heaviesも聞いていたね。僕のファースト・アルバムにはMos DefやM.O.Pといったこれらの全てのアーティストの曲が入っている。彼等がビッグ・ネームだからというよりは、その曲に魅了されたからだ。」

「僕のDJスタンスは、ロックからヒップホップというジャンル、色々なスタイルの壁を超える事。“VERSION”では、僕の好きな曲をモータウン風な'70年代のバージョンにしてみた。勿論、曲のオリジナリティの素晴らしさを殺さずに最大に引き出したよ。グループを変えたり、アレンジができる部分を探したんだ。決して、この曲は良くないから僕の手で良くしようという事ではなく、素晴らしい曲だからもっと良くしたいという気持ちの現れなんだ。」

「僕がDJを始めたのは1993年で、NYダウントウンの誰もが\$5しか持っていないような小さなクラブ。当時僕は幸運なスタートを切ったと思うよ。何故ならヒップホップが今のように商業的になる前で、ファッション業界もヒップホップをクールな対象とする前だったからね。ヒップホップがブレイクする前にこの業界に居て良かったよ。今ではDJをする事が多少減ったけど、毎週金曜のイーストビレッジのラジオ・ステーション(www.eastvillage

radio.com)やロンドンで一番のクラブ、YOYOでレギュラーパーティーをしているから、そこで僕のDJを聞けるよ。」

また、彼ほど生産的なプロデューサーは居ないであろう。セレブDJとして世界中でDJをしながら、Christina Aguilera、Robbie Williams、Lily Allen、Amy Winehouse、Dominoと彼の秘蔵っ子、RhymefestとDaniel Merriweather。その他多くのアーティストに曲を提供しつつ、Jay-ZのFade To Blackのサウンドトラック制作、故ODBのレコーディング、更にはOutkast、De La Soul、M.O.Pといったアーティスト達に楽曲を提供している。

さらには、Jay-ZやP-Diddyといったヒップホップの大物達がいる世界で、彼はビジネスマンとしての一面も持っている。ビジネスパートナーのRich Kleimanと設立したレーベル、Allido Recordsは、グラミー賞を受賞したシカゴ出身のRhymefestの“Blue Collar”をリリースしたばかりである。

DJ、プロデューサー、レーベル運営、モデル(DKNYのモデルとしても活躍中!!)と精力的に活動し続けるMark Ronson。約2年振りとなる今回の来日公演ではどんなセレブマジックを魅せてくれるのか。

"Mark's Top3 Favorite"

- | | |
|------------------------|------------------|
| - DJs - | - Producer - |
| 1 : Clark Kent | 1 : Quincy Jones |
| 2 : Errol Alkan (UK) | 2 : DJ Premier |
| 3 : Shortee Blitz (UK) | 3 : Jon Brion |
| - MCs - | |
| 1 : JAY-Z | |
| 2 : Big Daddy Kane | |
| 3 : Nas | |

